

患者サポートセンターだより

Regional alliances and support

2020

63号



撮影(表紙、2頁) 皮膚科部長 野村 友希子 表紙撮影地 野付半島

KKR 札幌医療センター

〒062-0931
札幌市豊平区平岸1条6丁目3-40
TEL 011-822-1811(代)

患者サポートセンター

地域連携室 TEL 0120-552-303
FAX 011-832-9624
連携いただいている先生方よりお受けしております。

医療社会事業相談室 TEL 011-832-3260
がん・緩和ケア相談を含む、
医療施設・患者・家族よりお受けしております。

目次

1. 新年度を迎えて
2. 診療部長就任のご挨拶
3. 診療部次長のご挨拶
4. 新任医師のご紹介
5. 専門看護師・認定看護師の活動の紹介
6. 地域連携室からのお知らせ



新年度を迎えて

病院長・患者サポートセンター長 **磯部 宏**

連携いただいている諸先生方には日頃から格段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度もご支援の程よろしくお願いいたします。

さて、胆振東部地震とその後の未曾有の北海道全域ブラックアウト、あるいは平岸爆破炎上事故から1年以上の月日が流れ、当院では災害対策とその訓練をしっかり行ってきました。しかし、それらの対策を、活動を、一気に吹っ飛ばすような災害に直面しております。新型コロナウイルス感染症です。

当院はこれまで感染症対策にしっかり目を向けてきました。成人・小児の感染症治療から院内感染対策まで十分取り組んできました。がん診療と救急医療を当院診療の二本柱としてきましたが、そもそも当院（幌南病院）は昭和27年に結核対策を主目的とする病院として誕生しました。そして昭和60年にその役割を終えたと判断し最後の結核病棟を閉鎖しました。しかしその後も結核を含めた感染症に関しては、高い診断能力と治療実績があると自負しております。従って、今回の新型コロナウイルス感染症に対しても正面から向き合っていくことは、当院の重要な役割と考えております。

当院職員は現在、通常の診療業務に従事しながら、新型コロナウイルス感染症対策にも貢献するという、2つの大きな使命を全うすべく日々努力しております。そのためには院内感染を発生させることなく、当院の機能を常に維持できることを最優先事項とし

ております。当院職員には毎日の体温測定を含めた体調管理を義務づけました。院内の委員会や会議も延期・簡略化し、道外へ出る場合は届出を必要としました。もちろん、この時期の例年行事である歓迎迎会を含めた宴会は強く自粛を求めました。

同様に、院内へのウイルス持ち込みを防ぐべく、入院患者への面会は原則禁止としましたし、病院への出入口は常時1カ所とし、院内を訪れる全員の体温測定を義務づけました。外来受診の発熱患者は診察までの間、自家用車や簡易隔離スペースで待機していただいております。また連携医の先生方に対して何度もお手紙を差し上げまして恐縮しておりますが、発熱や呼吸器症状のある患者のご紹介時には、他の患者との接触を避けるべく、とにかく事前の連絡をお願いしてきてきました。それら全ては院内感染を防ぎ、通常の病院業務を遂行するための措置であります。是非ご理解をいただきたいと思います。

このたよりが先生方のお手元に届く頃でも、新型コロナウイルス感染症問題の終焉は見えていないでしょう。この原稿を執筆している最中にも北海道内の院内感染事例が報道され出しております。繰り返しますが、当院は通常診療と世界的脅威の感染対策の両者にしっかりと真面目に取り組んでおります。当院の姿勢をご理解いただき、新年度におきましても、連携いただいている諸先生方のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



診療部長就任のご挨拶

脳神経外科 加藤 正 仁

連携医の皆様には、日ごろから格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。

さてこの度、診療部長を拝命いたしました加藤正仁です。私は、昭和 63 年に北海道大学を卒業し、脳神経外科医として診療に従事してまいりました。様々な現場で臨床経験を積み、平成 26 年 4 月に当院に赴任いたしました。

赴任以来、日々の臨床現場におきまして、連携医の皆様との協力の大切さを身に染みて感じております。特に現在は、中国の武漢に発した新型コロナウイルスの世界的流行で、人類の英知が試されている

状況です。見えない敵との戦いは総力戦の様相を呈しています。当院も、感染症指定医療機関、連携医の皆様と協力し、長期戦にも備える覚悟です。

また、非常事態の下であっても、当院の診療の 2 本柱である、「がん診療」と「救急医療」は全く揺らぐことはありません。

今後も連携医の皆様、地域住民の方々と日ごろから手を取り合い、医療施設として地域の核となるべく、診療と医療の充実に努めてまいります。

よろしくお願い申し上げます。



診療部次長就任のご挨拶



呼吸器内科 齋藤 拓志

2020年4月より診療部次長に就任しました。1998年から当院の呼吸器科に勤務しており、当院の地域連携室設立当初から連携医の皆様にはずっとお世話になっております。当時は当院最若手で働きづめ、連携室設立お披露目の会で「寝ないで働いています」と皆様に挨拶した記憶があります。

その後、連携医の皆様にはたくさんの御紹介・御指導・御協力をいただき、本当にありがとうございました。特に、当院で設立した睡眠時無呼吸症候群（SAS）の地域連携システムは札幌いびきネットワークとして全国的に高い評価を受け、学会だけでなくマスコミなどにも取り上げて頂きました。皆様の御協力なしでは実現しなかったことであり、この場をお借りして御礼申し上げます。

当院では引き続き SAS 診療に力を入れて参ります。SAS を疑う患者がいましたらご紹介を、また SAS に関する連携システムに興味がおありでしたら患者サポートセンターに御連絡を、ぜひよろしくお願いいたします。

連携室設立の頃とは医療情勢も変わり、現在当院ではさらなる地域連携の強化の段階に進んでおります。2020年4月の診療報酬改定でも、救急患者と紹介初診患者に対応しながら医師の過重な仕事量をどう減らすかについて実績が求められるようになっております。寝ないで働くがもはや通用しない時代です。このため特に最近では内科の再来患者をどう減らすかに腐心しております。安定している患者さんは（例え何十年当院に通っておられても）転院して連携医の先生方をお願いする方針にさせていただいており、先生方におかれましては経過の長い患者を当科から紹介されてご迷惑とは存じますが、是非とも当院の状況を救って頂ければ幸いです。再来の医師負担を減らすことで先生方からのご紹介にできるだけスムーズに対応出来るよう努めてまいりますので、今後とも患者サポートセンターをよろしくお願いいたします。

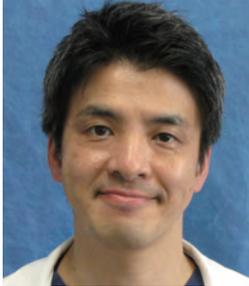


外科 武田 圭 佐

2020年4月1日付で診療部次長として就任いたしました。当院は豊平区・南区の中核病院の一つと自負しており、これまで、外科部長として消化器外科を中心に、トップレベルの外科治療を提供できるよう、大学医局などからも応援を要請しながら診療に当たってまいりました。これからも、医療の質を落とすことがないように最新の医療情報を吸収しつつ、他の外科系専門医ともども頑張っている所存です。

かかりつけ医である地域連携医の方々との情報交換は、非常に大事なことです。当院へ患者様を御紹介頂いたときに、迅速に対応し、的確な診断・治療を行うことが我々の任務であり、治療後にはその診療内容情報を提供し、今後の診療に活かして頂くことがお互いの利益につながります。ひいては、患者様にとって最適な医療を提供することにつながると考えられます。しかし、昨年までの当院の体制は連携医にとって満足いくものではなかったと思います。昨年より、体制を見直し、より迅速な対応と適切な診療報告を行うように努めてまいりました。今後も良好な連携を築いて行けるように努力してまいりますので、御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

新任医師のご紹介



整形外科 浅野 毅 (あさの つよし)

4月から整形外科部長として赴任した浅野です。3月までは北海道大学病院に7年間在籍し、特発性大腿骨頭壊死症、骨粗鬆症、発育性股関節形成不全の研究などを行っていました。股関節・膝などの下肢関節疾患と骨粗鬆症を専門としていますが、四肢外傷も幅広く対応いたします。これらの疾患でお困りでしたら是非ご相談ください。当院の整形外科を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。



外科・小児外科 水上 達三 (みずかみ たつぞう)

本年度より外科に赴任いたしました水上達三と申します。

医師14年目で、昨年までは帯広協会病院で勤務しておりました。帯広勤務が長かったせいもあり今先生には既に田舎臭い手術と言われますが、時間がかかっても合併症の少ない手術を心がけております。また、透析や呼吸器外科の手術なども今年から新たに携わっており、各所でご迷惑をおかけすることがあるとは思いますが、フットワーク軽く頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。



産婦人科 田中 理恵子 (たなか りえこ)

今年度より赴任となりました産婦人科の田中理恵子と申します。

これまで道内各地の病院で勤務してきました。

地域の医療に貢献したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科 金子 躍人 (かねこ やくと)

今年度より KKR 札幌医療センター耳鼻咽喉科に赴任致しました、金子躍人と申します。地域に根差した総合病院だからこそ可能な耳鼻咽喉科診療を心がけ、少しでも地域の皆様のお役に立てるよう、微力ながら尽力して参りたいと存じます。よろしくお願い致します。



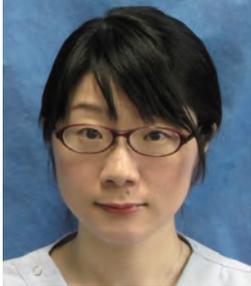
眼科 白枝 友子 (しろえだ ともこ)

今年度より眼科に赴任いたしました白枝友子と申します。

眼科は昨年度より1名増員の三人体制となりました。難症例白内障手術や硝子体手術など北大眼科と連携し幅広い疾患に対応できる体制を目指します。

地域の皆様のお力になれるよう精進してまいりますので、何卒よろしくお願い致します。

新任医師のご紹介



眼科 菊地 郁 (きくち いく)

4月からKKR札幌医療センター眼科に赴任致しました、菊地と申します。
今年度より、眼科は3人体制となります。北大眼科と連携しながら、さらにこの地域の眼科診療が発展するよう、また少しでも皆様のお役に立てるよう尽力して参りますので、何卒よろしくお願い致します。



整形外科 北原 圭太 (きたはら けいた)

2020年4月よりKKR札幌医療センター整形外科に赴任いたしました北原圭太と申します。整形一般幅広く診療にあたらせて頂きます。何卒宜しくお願い致します。



小児科 平松 泰好 (ひらまつ やすよし)

本年度より赴任いたしました小児科医師の平松泰好と申します。
帯広厚生病院に3年、北見赤十字病院に1年半、直近の半年は大学病院で勤務をしておりました。都会の市中病院は初めてなので、勝手がわからず御迷惑をおかけしてしまうこともあるかと存じますが、地域の小児医療に少しでも貢献できるよう尽力させていただきます。何卒宜しくお願い申し上げます。



小児科 澤井 彩織 (さわい さおり)

この度、小児科に赴任致しました澤井彩織と申します。前任地は北海道大学病院小児科です。
子供たちの健やかな成長のお手伝いが出来ますよう努力致します。何卒よろしくお願い申し上げます。



代謝内分泌科 鈴木 奈緒子 (すずき なおこ)

この度、代謝・内分泌・糖尿病内科に赴任いたしました鈴木奈緒子と申します。
主に糖尿病を中心とした生活習慣病の診療を行ってまいります。地域の医療に貢献できるよう精進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

専門看護師・認定看護師の活動の紹介

患者サポートセンター師長・がん看護専門看護師

平山 さおり

当院には、認定看護師が17名、専門看護師が3名、認定看護管理者3名が活動しています。それぞれの活動部署において、患者・家族への看護を実践するとともに、看護職への指導や相談にも応じています。病院内だけではなく、地域の医療機関や介護施設、在宅サービス等で活動している医療・介護職の方からの相談や、研修・学習会の企画運営の相談も受けております。お困りのことがありましたら、どうぞ、ご利用ください。

まずは、地域連携室に連絡していただきますよう、お願い申し上げます。

専門看護師	がん看護	: 3名
認定看護師	皮膚・排泄ケア	: 3名
	集中ケア	: 2名
	小児救急看護	: 1名
	手術看護	: 1名
	感染管理	: 2名
	がん薬物療法看護	: 4名
	がん放射線療法	: 1名
	緩和ケア	: 1名
	脳卒中リハビリテーション看護	: 1名
	認知症看護	: 1名
認定看護管理者		3名

ホームページ：KKR 札幌医療センター；看護部紹介；スタッフ紹介；スペシャリストをご参照ください。

<https://www.kkr-smc.com/web/nurse/staff/specialist.html>



地域連携室からのお知らせ

デジタルサイネージのご案内

KKR 札幌医療センターでは、退院後の継続的な治療と健康管理につなげていただけるよう、かかりつけ医を検索できる電子案内板「デジタルサイネージ」(タテ 2.1 メートル、横 2.6 メートル)を1階中央ホールに設置いたしました。案内板の右にある 55 インチの大型タッチパネルで市区別や診療科目別に検索でき、札幌市内を含めた近郊エリア内 383 カ所の提携医療機関の中から、該当する病院や診療所・クリニックの一覧が表示されます。操作パネルは床から 70 センチの高さにあり、車いす利用者も無理なく操作ができ、病院からの告知やニュース速報、天気予報も随時流れ、掲示板の役割も担っています。ご来院の患者様の待ち時間を有効に活用できる案内板となっております。



患者サポートセンター 新メンバー紹介



看護師長 田川 早苗

4 月より患者サポートセンターに配属となりました田川早苗と申します。病床管理(ベッドコントロール)も担っております。昨年度までは、医療安全管理者として、医療安全に携わっていました。

早期退院が進む中、患者さんのスムーズな退院とともに退院後の生活に困らない調整が必要となります。当部署において入院前からの関わりをもち、退院後も患者さん、ご家族が安心して、治療を受け、また、その人らしく生活ができるよう支援していきたいと考えています。そして、地域の先生、医療機関の皆様とともに患者さんへのチーム医療が提供できたらと思います。

地域の方々に安心して受診していただけるよう、また、連携医療機関の皆様にも安心してご紹介いただけるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

連携医調査票の記載をお願いいたします

日頃より連携医の皆さまには格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今後も地域医療機関の皆さまとの連携をより充実して参りたいと思いますので、お手数ですが、同封させて頂きました【連携医調査票】をご記入の上、下記まで FAX をお願いいたします。

今後とも地域から信頼される病院づくりに取り組んで参りますのでよろしくお願い申し上げます。

FAX 番号 011-832-9624